

新しい生活様式

一人ひとりができる基本的な感染対策

2 m 空ける

遊びは
屋外>屋内

外出時に
マスク着用

会話時
真正面は×

帰宅時に
必ず手洗い

日常生活の新しい形 (例)

ネット
通話

テイク
アウト

運動は
室内動画

働き方の新しい形 (例)

テレワーク

名刺は
電子交換

訪客来訪
滞り回避

中野区HPより

手洗い

新型コロナウイルスを食む感染対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を食む感染対策」です。

ドアノブや電車のつり革など様々なものに触れることにより、自分の手にもウイルスが付着している可能性があります。外出先からの帰宅時や調理の前、食事前などにまめに手を洗います。

正しい手の洗い方

①流水で手を濡らす
②手のひら、手背、指の間、爪の間、手首を洗い流す
③流水で手をすすぐ
④手を拭く

手洗いは、手洗い場がない場合は、アルコール消毒剤で手を拭くことも有効です。

マスクについて

現在、予防用マスクを買い替えている方が多いですが、感染防止の最大の効果的な予防には、**風邪や感染症の疑いがある人たちに使ってもらうことが何より重要です。**

マスクの正しい使い方

- マスクは買い占めなくとも大丈夫
風邪や感染症の疑いのある人にマスクを渡すために、必要に応じて買い占めようではありません。
- 使い捨てマスクがないときは代用品を使う
ガーゼマスク、タオルなど口を覆うものでも効果はありますが、必ず取り替える必要があります。
- こまめな手洗いは基本も大事
手洗いや、消毒・食事の前など、口を覆うに代わる前に、こまめに手洗いをしましょう。

マスク不足を解消するために官民連携して
毎週1億枚以上のマスクを消費者のみさまにお届けします。

厚生労働省HPより

Home Page

Facebook

HOMEPAGE

ホームページ

小林ぜんいちオフィシャルWEBサイト

ホームページ

http://kobayashizenichi.com/

Facebook

「小林ぜんいち」で検索

小林 ぜんいち

■議役職等

- 中野区監査委員
- 総務委員会委員
- 中野駅周辺整備・都市観光調査特別委員会委員

■経歴

- (株)宮本忠長建築設計事務所
- (有)TAF 設計事務所
- 住宅・教育・医療・福祉・文化・宿泊・耐震等設計監理、専門学校等 講師など

■所属団体等

- (社)日本建築学会正会員
- (社)東京建築士会正会員
- 福祉住環境コーディネーター協会会員
- マンションリフォームマネジャー
- 日本防災士会会員
- 早稲田大学稲門建築会会員
- 中野稲門会会員
- 中野区長野県人会副会長
- 上町町会会長

中野区議会 公明党議員団 中野区中野 4-8-1 TEL.03-3228-8875

小林ぜんいち NEWS

Zenichi Kobayashi

ご挨拶

パンデミック(世界的に大流行)となった

COVID-19・新型コロナウイルス感染拡大により、

お亡くなりになられた皆さまに

謹んで哀悼の意を表するとともに、

今なお罹患され闘病されている皆さまにお見舞いを申し上げ、

早期回復を心よりお祈り申し上げます。

また、最前線で献身的に医療に従事する皆様をはじめ、

私たちを見守り支えあってください

全ての皆さまに心より感謝を申し上げます。

小林 ぜんいち

— KOMEITO —

公明党

第31号

2020年7月発行

中野区公明党議員団

一般質問項目

- 1.中野区の財政運営について
 - 1)補正予算と予備費について
 - 2)今後の予算執行について
 - 3)区有財産全体のアセットマネジメントについて
- 2.中野区政のBCPについて
 - 1)中野区事業継続計画に基づいた行動評価について
 - 2)新型インフルエンザにかかわる今後の対策について
- 3.高齢者と子どもへの支援について
 - 1)「とうきょうママパパ応援事業」で拡充する産後ケア事業について
 - 2)虐待と孤立を防ぐ子ども・高齢者の食の支援について
 - 3)子ども食堂の支援について
- 4.中野区のまちづくりについて
5. その他

新型コロナウイルスの医療従事者への感謝で編隊飛行するブルーインパルス

小林ぜんいち 令和2年(2020年) 第2回定例会 一般質問から抜粋

COVID-19、コロナ禍でも予備費は慎重に執行すべき

小林 コロナ禍で国や都の給付金や交付金、補助金に関わる区の支援策を講じた補正予算事業を執行する一方で、区は4月、5月に、緊急対策事業にともなう予備費を充当した。区は緊急対策を行う財政運営において、補正予算と予備費の執行をどのように考え、決めているのか。予備費充当にあたって、中身の見える化を図り、議会への報告を詳細に行うべきでないか。

区長 議会での審議時間がなく早急な対応のため、PCR検査センター開設、マスク、消毒液などの購入に充てた。あらかじめ議会報告が難しい場合もあるが、事後報告も含め必要な説明をしたい。

小林 区は区庁舎へサーモグラフィーを導入した。東京都は新型コロナウイルス感染症への追加対策として区立学校等へサーモグラフィーの導入補助を検討している。区有施設など不特定多数の人が集まる高齢者施設などへも導入をしてはどうか。

区長 施設の利用者数、利用目的、運営実態などの状況に応じて検討していく。

今後の予算は10年後を見据えた執行を

小林 SDGsの一番大事な視点は、「誰一人取り残さない」と「バックキャスト」の考え方だ。コロナ禍にあって、長期的な財政運営が求められる。令和2年度予算の概要で、4年後の令和6年には700億をこえる起債残高・借金が区政運営の大きな負担となる。「世代間の負担の「不」公平化」とならないよう、財政規律の順守や経常経費化する事業の精査、起債の抑制と公債費負担比率の抑制もすべではないか。

区長 投資的事業の基金と起債をバランスよく活用していく。後年度への負担が大きな起債発行は慎重におこない、区民サービスに影響を及ぼさないよう進めていく。

小林 区が行った補正事業は、国の政策であり、区民への区独自支援策はないに等しい。抜け落ちた部分をカバーするのが基礎自治体の役目ではないか。区は「新しい生活様式」のもとで私たちの身体や日常生活機能維持を支える事業者に対し、区独自の支援を偏りなく行っているか。

区長 生活支援に関わる事業者も含め、実態把握と支援の必要性を研究してまいりたい。

小林 「新しい生活様式」に伴い日常が変わる中で、高齢者や障がい者支援のあり方も変わり、まちづくり、環境保護、貧困などの社会的課題を解決していくソーシャルビジネスの参入が予想される。民間のアイデアを活用した新たな事業、ソーシャルビジネスを行うNPOや事業者に対し、仕組みづくりや財政支援をおこなってはどうか。

区長 ソーシャルビジネスは今後の区民生活や事業のあり方の検討に必要なもの。国の制度も参考に支援方法等を検討したい。

区有財産全体のアセットマネジメント

小林 区の基本計画策定は、令和3年度へと大幅に遅れが生じる。財政運営や区有財産全体を視野に入れた「アセットマネジメント」は大きく変化すると考える。今後の区有施設計画は、地震や風水害の避難拠点のあり方とともに、施設配置や「新しい生活様式」を踏まえた施設を、緊急的な活用で転用できるよう検討を行ってはどうか。

区長 改めて見直す際に、新たな視点で今後の施設の在り方を検討していく。

中野区事業継続計画(BCP)に基づいた行動評価を

小林 COVID-19、新型コロナウイルス感染の拡大防止を行うべき時に、区は全庁挙げて危機管理認識に欠け、俯瞰的な視点に立った思想的危機管理が行われていないと考える。区のBCPに基づいて業務選定や体制整備は迅速に行うことができたのか。

区長 中野区新型インフルエンザ等対策行動計画に基づく応急対策業務を実施したと考える。

小林 BCPの執行にあたって顕在化した課題、解決策、そして今後の取り組みと合わせてBCPの見直しを行うべきではないか。

区長 来庁者や職員への罹患が発生した場合、庁舎の閉庁が予想される。行政機能が停滞しないよう検討や改善し、BCPに反映する。

小林 避難所の感染症対策に関するソフト面での対策を進め、的確に避難所を運営するために、訓練・シミュレーションを行うべきではないか。

区長 感染症拡大防止対策を盛り込んだ避難所運営マニュアルの改訂を踏まえ、訓練を推進していきたい。

小林 「コロナとの共存」、「ウィズ・コロナ」、「アフター・コロナ」を見据え、福祉、教育などのあらゆる区政の領域でコロナとの共存を前提とした、施策の立案・執行が求められる。どのような視点が必要と考えているか。

区長 感染拡大防止と区内経済の活性化のバランスを考え、ニーズの把握と将来に向けた新たなシナリオを描いていく。

中野区のまちづくり

小林 区はこれまで中野駅周辺や西武新宿線沿線のまちづくり、木造密集地域における防災まちづくりなど、着実に歩みを進め、成果を上げてきた。中野駅新北口駅前エリア再整備事業など、中野駅周辺のまちづくりとスケジュール、コロナ禍で募集期間など要項、事業内容の再検討など見直しはあるのか、区の関与に変更はないのか、伺う。

区長 「再整備事業計画」に基づき進め、内容や区の関与はこれまでと変わりはない。事業の詳細は、事業者決定後、社会情勢を踏まえ進めていく。

(写真2020.06.03)

新型インフルエンザに係る今後の対策を

小林 地域の医療機関で感染症が発生した場合、感染の拡大防止のため、外来診療の休診や地域の拠点医療施設を一時的に閉鎖せざるを得ない。地域における医療の継続のために、どのような取り組みを進めていくのか。

区長 地域医療の確保に向けて、区医師会や近隣病院等へ患者の受け入れを要請する。西部医療圏のネットワークによる相互のサポート体制について東京都へ提案していく。

小林 早期に感染症の拡大防止に係る庁内の連携や危機に対する認識の強弱、想定外の感染症対策を含めた危機管理について、全庁的な行政対応に関する検証を行う必要があると考える。また、外部から専門家を入れた客観的かつ専門的な検証を行うべきと考えるがどうか。

区長 新型コロナウイルス感染症の対応について得た経験を危機発生時に活かしていく。全庁的な対応が図れるよう、専門的な知見を取り入れることも検討する。

小林 PCR検査を希望する妊婦や助産師に、全額支給で検査を実施してはどうか。

区長 区医師会や帰国者・接触者外来を持つ医療機関などとPCR検査の在り方を検討していく。

今後の産後ケア事業の充実を図れ

小林 都は産後家事・育児支援事業の年間利用上限を拡充し、第一子出産後は60時間、3歳未満の兄・姉がいる第二子以降の出産後は180時間まで補助を予定している。区は補助を活用し、より質の高い支援と利用増で母子の孤立を防ぐことが可能になる。利用しやすい適切な利用額の設定と、ケア支援者への委託料を増額してはどうか。

区長 利用者の負担額や委託料は、総合的に判断していく。

小林 「産後ドゥーラ」は民間資格だが、70時間の養成講座を受け資格を取得している。養成講座を受講する受講者に対し助成してはどうか。

区長 需要の拡大が見込まれるため、都の補助制度を適切に活用したい。

虐待と孤立を防ぐ「子ども・高齢者等への食の支援」を充実せよ

小林 子ども家庭支援センターがいま支援を必要としている家庭をはじめ、本来「こども宅食」を必要とする家庭への支援を開始すべきではないか。

区長 多様なサービス提供のため、相談支援を継続している家庭、配食が必要と考えられる家庭に配食事業の実施を検討したい。

小林 コロナ禍にあって高齢者の配食と見守りについて、日頃のコミュニティやデイサービスが経たれ、孤立していることで、うつや認知症が進んでいると思う。コロナ収束後も継続できる配食サービスや、買い物弱者支援、見守りや高齢者向けの情報提供の充実を図ってはどうか。

区長 配食サービス事業者の協力を得て、提供を行うことを検討している。買い物弱者は、状況やニーズを把握した上で検討したい。

小林 高齢者会館や区民活動センターを活用した熱中症予防の密にならない居場所づくりや、体操や相談会、対面での特別定額給付金などの相談対応もできる体制を強化すべきではないか。

区長 ガイドラインに沿って条件や環境を整える。相談対応は、民生児童委員の協力を得ながらアウトリーチチームを中心に支援を行いたい。

「子ども食堂への支援」を充実せよ

小林 コロナ禍にあって必要性は増しており、子どもの孤食の解消や、母子のコミュニティによる不安や育児疲れの解消に役立つ。「こども宅食事業」など子ども家庭支援センターを通じた要支援の家庭をさらに把握することで、貧困家庭に食の支援を届けることができる。区は社会福祉協議会に助成事業を一本化し、区は場所や物資の支援を行い、ボランティアの方々の負担軽減を図ってはどうか。

区長 事業の一本化を検討するとともに、支援団体へ必要な支援を機動的に行うため検討していきたい。